

●**里山農園 白土山の洞穴ルート完成式 披露** 17日(土) 8月14日にガイドロープの延長(約500m)によって、とにかく洞穴までの通路を迷うことなくたどりつくことが可能になりました。これまでは通路の目に付く場所にするしの布や目印のヒモを結び付けるなど安易な手法で間に合わせてきました。ロープの使用でだれでもが間違いなく進むことが可能になりました。これまでの洞穴への到達は並み大抵には到達をなしえられなかったものです。特に最初の探り出しと距離の測定等ルート確定は困難が続きました。障害物の除去を行い安全の確保が一通り完成できた直後の台風の来襲による強風で枯れ枝の落下、大木の倒壊など、被災のひどさは予想を超えるものでした。金田さん森島さんの情熱と追い込みにかける迫力で、困難を乗り越えていただきました。無事に17日の成功を勝ち取っていただきました。今回の通路の確定は、2年前から補助を受けた夏原グラントの資金による巨大枯れ木の伐採・除去が進められ、そして今年の通路の完成によって施設の充実と変化が実現し新しい魅力が誕生しました。これを足掛かりに、充実した施設の活用と充実を図り、さらに自然の宝庫を新しい段階に引き上げていく第一歩が踏み出されました。発展と充実への可能性が大きくなり、里山農園と地域との連携などにも取り組み、豊かな自然を広く知らしめ保全と維持の両面を計らなければならないと考えられます。農園の明日が切り開かれました。さらに多くの皆様のご協力をお願いいたします。

●**京田辺市環境パートナーシップ 環境フェスタ** 18日(日) 京田辺市中央公民館 白土山洞穴ルート完成式の翌日の18日(日)には京田辺市の環境フェスタが開催されました。里山の会はこの数年連続して参加し環境問題について活動を通じて得た成果を発表する良い機会として参加してきました。例年通りの松かさツリーづくり体験と本年の中聖牛の製作を展示発表として参加しました。松かさツリーづくりでは昨年より数十人の増加が見られました。2年続きで同じ場所での出展でしたので効果が生まれているようです。しかし市内に存在する環境サークルの絶対数が不足するのか、地域からの参加数がやや少ないように感じました。城陽市の同様の取組と比較すると、活動団体があまり目立たず、市民の間での活動に弱さが表れているようでした里山の会は、理事中心にした人々による出店となりました。

●**県外研修会**は20日、豊岡市と特別天然記念物とされているコウノトリ郷公園、地域の街づくりや環境問題を訪ねました。10人が出席今年度当初の計画で、豊岡のコウノトリ郷公園を目的にした計画を立ててきました。昨年と同様一泊研修についても検討しましたが、コウノトリ公園が月曜日は休日とのことで、宿泊をあきらめて、日帰りコースに変更しました。17日の土曜日は白土山ルートの完成式披露、そして翌日18日は環境フェスタが続き、一日空いての研修会でした。豊岡市コウノトリの野生復帰をメインにして円山川沿川の取組をし、地域の方々との意見交換会交流を深めました。最初は蓼川井堰を案内いただきました。ここは両岸に農業用水の取水口があって堰が改良され、水の流れる川幅に遡上する魚に合わせて5種類の魚道が作られていました。そして溜まる土砂を流し出す水路も設けられていました。これは動力によって稼働するようでした。川幅全体使ったの装置などにはおどろかされました。河川敷地内に作られている装置、そしてコウノトリの巣塔と周辺の田んぼ、洪水対策として川道内大きな島の取り除き現場、午前中最期の視察地田結の見学をさせていただきました。ここでは豊岡市のコウノトリを復元に取り組むに松島さん(播川さんの同級生)が10年間にわたってコウノトリに餌を与え続け、今日の発展の最初を切り開いたとのお話がありました。ここは12haの田んぼを農家が一致団結して提供された土地でした。研究者や学生がここで活動されている場所です。しかし、コウノトリは田んぼの中で採餌するのが本来な

のですが、ここは湿地化して、野生の鹿が草を食べて湿地が維持されているとのことでした。本来の在り方ではないということでした。午後はコウノトリ郷公園で見学し、続いて地元の皆さんや市役所の職員さんから街づくりやフジバカマの増殖や保全について説明を受けました。そして河川協力団体の方々から活動の説明をいただきました。この取り組みには豊岡河川国道事務所の深沢副長さんから管内の概要説明を受けました。また田中職員には終日ガイドをいただき、時々適正な案内説明をいただきました。そのほか多くの行政職員さんや地元河川協力団体の方々に大変お世話になり、充実した研究会になりました。皆様の歓迎に心からお礼申し上げます。参加者一同感謝申し上げます。ありがとうございました。

●**中聖牛の取組** 聖牛組立用の木材到着 20日に森島さんが静岡県から原小組さんのお世話になった中聖牛の木材を受け取っていただきました。運送業者の柿本さんは、19日の21時に奥さんに同伴していただき出発されました。7mに及ぶ木材を積んで高速道路を走行することはかなり危ないと考え、一般道を使って長距離を届けていただきました。大変苦勞をしていただきました。打ち合わせもうまくゆき、井手町役場付近で出会うことが出来て、トラブルことなくすべてうまくゆきました。

●**大聖牛の寄贈用モデル到着** 京都大学防災研究所 宇治川ラボトリー 研修室に設置 柿本さんのトラックに原小組の社長・原廣太郎様から、大聖牛の10分の一のモデルの寄贈がありました。これは京都大学の防災研究所の所長中川一教授さんから玄関の歓談室に聖牛の設置をお願いしたいと希望があって、原社長に製作をお願いしたところ。快く寄贈するという返事があったので届けられたものです。受け取らせていただきましたので、早速お届けいたします。

●**こんなにうまく事が進むとは思ってもよらなかった** 京田辺市文化祭に出逢った府営団地前川さんにも製作をお願いいたしましたところ、19日に完成したとの連絡をいただきました。前川さんは爪楊枝で五重塔、姫路城、熊本城を製作されてきました。それも設計図なしで。写真をもとに大きさや長さ等釣り合いを推し量って、製作される特殊な技能をお持ちです。熊本県出身者で、何か勇気づけられないかと熊本城を作成され、被災地の姉さんの仲介で熊本市役所ロビーで披露され京都からの激励を果たされています。この前川さんの作品も完成されました。これは里山の会があらゆる場面で披露する場で大いに活用させていただきます。

●**中聖牛組立と玉石投入ボランティア募集** 12月8日9日 午前9時集合 場所 玉水橋東詰 木津川右岸

川づくりをみんなの手で行おうと取り組みを始めて、3年目になります。今回は3回目の取組になります。いよいよ3回目最後の仕上げ段階を迎えました。12月8・9日(土日)の午前9時から中聖牛の組立を行います。設置できれば直ちに蛇籠に玉石の投入を開始します。この二日間でいかに玉石を投入できるかで完成が決定します。わずかの時間でもお手伝いをお願いいたします。アクセスはJR奈良線玉水駅下車西へ5分で木津川堤防に出ます。目前に幟や横断幕を目印に川に降りて広場にご集合ください。車でお越しの場合は玉水橋の東詰直後(木津川右岸)を下流の広場にご集合ください、駐車場はいくらでもあります。ご参集をお待ちしています。ご参加いただく場合、昼食準備がありますので、住所氏名のご連絡をお願いします。

FAX0774-64-4183 [メール fddb257@ybb.ne.jp](mailto:fddb257@ybb.ne.jp)

終了時刻は15時としています。